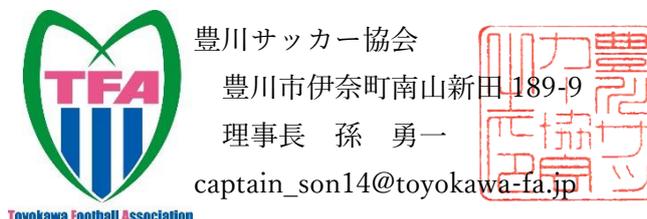


2021年1月吉日

1種加盟チーム 代表者各位



1種シニアリーグ戦の審判について

いつも大変お世話になっております。この度、1種（シニア）リーグ戦において小学生が副審を担った件について、シニア加盟チームよりその是非に関するご指摘を頂きました。さらにリーグ戦における主審の技量についてのご指摘も頂きました。つきましては、協会として以下の通り見解を示したいと思っておりますので、加盟チームにおかれましてはご理解を頂けますようお願い申し上げます。

1. 1種シニアリーグ戦を学生審判員が行った件

現在、豊川サッカー協会では2名の学生審判員を応援し、小学生の大会・フェスティバルおよびO-50交流戦において、その趣旨をご理解頂き学生審判に対して試合経験を積んでもらうことはもとより、審判の技術指導を行っています。

彼らは審判員の資格も取得し、ルールにつきましても日々勉強しております。さらに上級審判になりたいという強い意志と目標を持って活動しています。

問題となった試合の審判担当チームである、豊川シロキシニア（代表：藤島氏）から聞き取り調査を行ったところ、協会事業とは別に経験をさせてあげたく豊川シロキシニア担当分の審判を打診したところ、当該学生審判員より「是非ともやらせてください」とのことで豊川シロキシニアの帯同審判をやって頂いた。との回答でした。

ご存じのように、藤島氏は当協会の審判部長も務めており学生審判員の育成も担っておりますが、協会への伝達・報告はもとより事前に各チームへの連絡およびご理解を頂く等の配慮が足らず、加盟チーム皆様への不信感を抱く事態になったことに対し深く反省しております。

また、当協会の事業において当該事案を把握しておらず、加盟チームの皆様にご迷惑とご心配をおかけしたのは、最終的には理事長である私の責任であるとも認識しております。改めてお詫びを申し上げます。大変に申し訳ございませんでした。

さて、今後の学生審判員の育成に関しては理事会にて協議・検討することになると思っておりますが、協会としては引き続き学生審判員の育成に力を入れていきたいと考えております。来

年度以降の育成方法に関しては別途協議となりますが、様々な場面での経験が必要とも考えておりますので、加盟チームの皆様方をお願いをする場合は何卒お力添えを頂けましたら幸いです。

2. シニアリーグにおける審判の技量の問題について

本件も加盟チームより、主審の技量に関する疑義がありました。

「反則でも笛を吹いてくれない」「カードを出してくれない」等の批判は、多くの協会理事も実体験として理解しておりますし、主審の判断でゲームが荒れたり、まとまったりするのも理解しております。

上記のような問題を改善するために、協会審判部としても対応が必要ではあると考えておりますので、徐々に全体のレベルを向上させるべく、講習会等の開催を計画していきたいと考えております。

さらにルールに関しましては、昨年度大きな改定があり、審判講習会にて各チームの皆様に出席をして頂いた際に資料を配布しておりますので、講習会に出席した方が自チーム内に展開して頂ける様をお願いをさせていただきました。審判資格の更新プログラムにおいてもルール改定について示されていますので、各チームの資格保有者から展開して頂けると幸いです。

一昨年の総会時、加盟チームの皆様「情報公開」をお約束いたしました。それは良いことも悪いことも「隠さない」という宣言です。

本件事案は、当協会の過ちと認識し改めてお詫びを申し上げます。大変に申し訳ございませんでした。

本件事案を教訓に加盟チームの皆様方から信頼に値する豊川サッカー協会として育てていきたいと考えておりますので、今後ともご指導頂けますよう心からお願い申し上げます。

以上よろしく願いいたします。